

海外調査・展開 (3-I-13-2~3-I-14-2)

本セッションでは、海外をフィールドとした調査研究 3 編 (3-I-13-2~3-I-13-4) と、海外での技術適用を念頭においた試験研究 2 編 (3-I-14-1, 3-I-14-2) が発表された。

海外をフィールドとした調査研究では、タイにおける下水道システムについての調査(3-I-13-2)および、ベトナムでの家庭の水使用量に関わる調査(3-I-13-2)結果が報告された。3-I-13-2では、タイの39カ所の下水処理場を対象とした質問紙調査、および4カ所の下水処理場への聞き取り調査による、流入下水濃度や処理水量の調査結果が報告された。さらに、調査結果に基づく水質モデル解析の結果が示された。3-I-13-2では、ベトナムのハノイ市近郊を対象地域とし、聞き取り調査により家庭における用途ごとの水使用量を推定する方法が提案された。このような海外での調査研究は、質問紙の設計や、データ取得において独自の工夫が必要であり、これらの報告は貴重な示唆を与えるものとなった。また、3-I-13-3では、アジア7都市を対象に、それぞれの都市における水供給および衛生改善に関わる制約条件が整理報告された。前者2編が一次データに基づく解析であったのに対し、本編は、各地域に関する二次データに基づく分析である。特に開発途上国においては、二次データの取得も困難な場合が多く、どこまで二次データが取得可能で、一次データで補完すべき点にはどのような点があるのかを議論していくことは、海外での調査研究を進める上で重要といえる。

後半の2編は、灰を用いた大便処理(3-I-14-1)および尿の農業利用(3-I-14-2)に関する試験研究報告であった。3-I-14-1では、大便処理に灰を用いることが細菌群の不活化にどのような影響を及ぼすかが報告された。また、続く3-I-14-2では、尿の農業利用に伴い、その施用のタイミングが作物にもたらす影響の試験結果が示された。特に開発途上国においては、地域状況に即した糞尿処理システムの導入が求められる。本報告2編は、糞尿処理と共にその農業利用を目指すシステムを対象に、そこでの技術的課題に取り組んだものである。

これらの研究報告からは、貴重な知見が得られており、今後の研究発展が期待される。

(東京大学 栗栖 聖)